

# はじめの100ヵ月の育ちビジョン

「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン」(R5.12 こども家庭庁)

## 【目的】

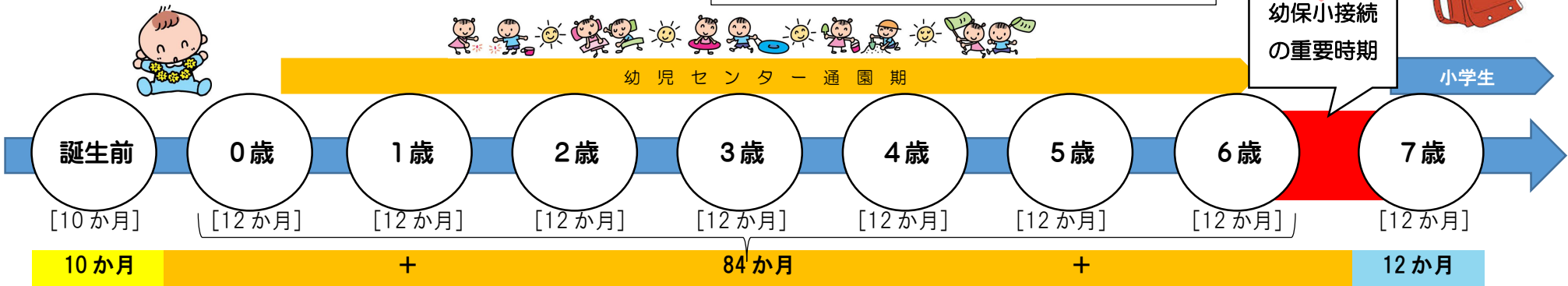
全てのこどもの誕生日前から幼児期までの「はじめの100ヵ月」から生涯にわたるウェルビーイングの向上を図る。

## 架け橋期

幼保小接続の重要時期



小学生



### 脳の感受性期

\* 環境の影響を特に強く受け、脳が変容する特別の時期

- 乳幼児期(0~6歳)
- 思春期(10~15歳頃以降)

### \* 胎児期~乳幼児期(0~5歳頃)「敏感期」

- 脳が急成長する(3歳までに80%、6歳までに90%が完成)。
- 五感を通じた多様な刺激(遊び、触れ合い等の体験)で感受性や表現力が豊かになる。
- 愛情ある適切な関わりにより、将来のストレス耐性や自己肯定感、問題解決能力につながる。

生涯にわたるウェルビーイングの基盤を築く

- \* 全ての人が支え合う
- 「大人が子どもを支える」
- 「子ども同士が育ち合う」
- 「若者も子どもの育ちを支え合う」
- 「大人・子ども・若者も乳幼児に育てられる」

## ウェルビーイング

身体・心・環境の面で幸せ

### 5つの柱

#### 1 こどもの権利と尊厳を守る

- \* こども一人一人の思いや願いを大切に。
- ・ 全てのこどもに生まれながらの権利がある。
- ・ 置かれた環境に関わらず生命と生活を保障する。
- ・ 乳幼児の思いや願いを受けとめ、主体性を尊重する。

#### 2 「安心と挑戦の循環」を通してこどものウェルビーイングを高める

- \* 「アタッチメント(愛着)」「安心」を土台に、「遊びと体験」(挑戦)を繰り返しながら成長する。
- ・ 不安な時に身近な大人が寄り添い安心感を得る。
- ・ 様々な人や自然・絵本などの環境と出会い、挑戦を通して自分の世界を広げる。

#### 3 「こどもの誕生日前」から切れ目なく育ちを支える

- \* 成長に応じた環境の変化が育ちの切れ目を生まないように、全ての関係者が連携して育ちを支える。
- ・ 妊娠期(準備期)から社会全体で支援・応援する。
- ・ 幼児期と学童期以降の接続を不断に改善し、学びに繋がるよう育ちを保障する。

#### 4 保護者・養育者のウェルビーイングと成長の支援・応援をする

- \* こどもに近い保護者・養育者がこどもとともに育つことができるように様々な人や機会を支える。
- ・ 子育てと家庭教育の観点で専門的な支援を行う。
- ・ 子育てや家庭支援に関するネットワークを形成する。

#### 5 こどもの育ちを支える環境や社会の厚みを増す

- \* こどもや子育てに直接的に関りがある人もない人も、全ての人がかこどもの育ちにとって大切な役割を担う。
- ・ 周りの全ての人がかこどもの育ちを支え、応援する。
- ・ 地域では様々な人が関わり合い、こどもの育ちを支える環境や社会の仕組みを作る。

「こども基本法」(R5.4 施行)



「こどもまんなか社会」の実現を目指す